宍粟地域（山崎町・一宮町・波賀町・千種町）

発行者	兵庫県農業共済組合宍粟事務所	（0790）60-3004
連絡先	龍野農業改良普及センター	（0791）63-5174
	宍粟市　農業振興課	（0790）63-3109
	ハリマ農業協同組合 営農経済センター	（0790）72-1235

令和７年

水稲病害虫防除情報

第３号　（８月２６日発行）

1　水稲の生育状況・気象状況

向こう１ヶ月の天気（8/16～9/15）は、平均気温の高い確率が 80%と見込まれています。降水量については少ない確率が 50%と予想されています（１か月予報　大阪管区気象台８月 14 日発表）。

＜農業技術センターにおける生育調査結果＞

品種（調査地点）	調査日	草丈(平年比)	茎数(平年比)	主稈葉数(平年差)	移植日
コシヒカリ(朝来市)	8／12	109cm(100%)	521 本/㎡(123%)	13.7(+0.2)	5／9

2　病害虫調査結果（８月２０日調査）北部地区

病害虫名	調査結果の概要
いもち病	今回の調査では確認されていません。
紋枯病	一部で軽度の病斑が見られました。
縞葉枯病	今回の調査では確認されていません。
ウンカ類	各地で発生しています。 ・「トビイロウンカの確認はされていません。」
ツマグロヨコバイ	一部で発生が確認されました。
カメムシ類	一部で発生が確認されました。

3　調査結果詳細

令和7年度　第3回　　水稲病害虫発生状況調査 結果一覧表　　調査日：令和7年8月20日　　天候：　晴

調査地区名	作付品種	田植日	病害（抽出25株中の発病株数）								害 虫 発 生 状 況							その他
			葉いもち		穂いもち		紋枯病		縞葉枯病		ツマグロヨコバイ	ヒメトビウンカ	セジロウンカ	トビイロウンカ	バッタ類	フタオビコヤガ	カメムシ	箱施用剤
			発病株数	発生程度	発病株数	発生程度	発病株数	発生程度	発病株数	発生程度	発生程度	発生程度	発生程度	発生程度	発生程度	発生程度	発生程度	有・無
上比地	コノホシ	5/18	1株	少								少					少	有
矢原	きぬむすめ	5/15	5株	少								少						有
杉ケ瀬	コノホシ	5/28											少					有
下牧谷	キヌヒカリ	5/17	3株	少								少	少					有
青木	いにしえの舞	5/30	4株	少								少	少					有
葛根	キヌヒカリ	5/30											少					有
西深	コシヒカリ	5/10					13株	少			少		少				少	有
杉田	コシヒカリ	5/10					5株	少										有
谷	コシヒカリ	5/10																有
西山	コシヒカリ	5/16						少			少	少	少					有

※ 発生程度は、無、少、中、多、甚の5段階評価です。　（病気の発生程度は病斑の進行具合により評価しています。）

4　病害虫について

●いもち病

葉いもちが上位葉へ伸展すると、穂いもちの発生が懸念されますので、いもち病が発生していないかを確認して下さい。発生している場合は、栽培ごよみ等を参考に速やかに防除を実施しましょう。

●紋枯病
　今回の調査では、発生が確認されました。
　紋枯病は、30℃前後の気温と株内の高湿度が感染の最適条件です。特に、例年発生しているほ場や過繁茂のほ場では畔際の株元等を注意深く観察しましょう。

●トビイロウンカ（秋ウンカ）
　収穫前に坪枯れを引き起こすトビイロウンカの発生は確認されませんでした。兵庫県病害虫防除所では、平年並みと発生予想されております。トビイロウンカの増殖を見逃さないように、こまめに株元を中心に見回り、適期防除を心がけましょう。

●斑点米カメムシ類
　今回の調査でも、**カメムシ類の発生が確認されました。**兵庫県病害虫防除所の予報でも、例年に比べやや多いと予想されています。カメムシが多いほ場では、薬剤の残効が切れてしまっている場合もあるため、防除しましょう。

クモヘリカメムシ

ホソハリカメムシ

アカスジカスミカメ

トゲシラホシカメムシ

イネカメムシ

５　有効な薬剤等と今後の管理

（１）臨機防除
　本年水稲の収穫は例年より早まっています。収穫間際での病虫害の発生による防除を検討される場合には、ハリマ農業協同組合、龍野農業改良普及センターまでお問い合わせください。

※特別栽培米等生産者の方は、栽培ごよみを確認のうえ、ハリマ農業協同組合、龍野農業改良普及センターまでお問い合わせください。

（２）その他
・**倒伏し、穂が地面に着いている場合は、穂発芽の恐れがあるため、できるだけ起すようにしてください。**
・**早期落水による田面の過乾燥は、登熟不足や胴割れ米、乳白米の原因となりますので、刈り取りの７～10日前まで適度な湿りを保ちましょう。**

（３）台風襲来に対する事前対策
・排水溝の詰まり等の点検・補修を行い、冠浸水時の速やかな排水に備えましょう。
・強風による青枯れ症状、倒伏や稲穂の振動等を軽減するため深水管理に努めましょう。

農薬の飛散防止に努めましょう。　作業中の熱中症対策を忘れずに！